

か め や ま

亀山城

(愛知県新城市)



亀山城遠景（西から）

亀山城の立地場所は、徳川方の拠点であった吉田城のある東三河平野部や徳川家康の居城であった岡崎城のある西三河地域への至る陸上交通の要所地にあたりました。

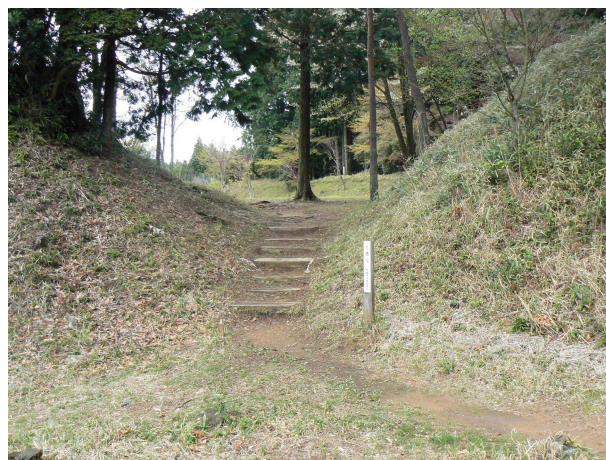
また、この亀山城を中心にして、半径1km 以内には武田方の古宮城や塞之神城、奥平氏の文殊山城があり、武田方の一大拠点がここに築かれていたということがこの地域の見どころとなっています。

亀山城の縄張り

亀山城は、曲輪の頂部を標高 547m、比高差約 30m を測る半独立性の丘陵上に立地しており、形態は平山城に分類されます。

主郭は丘陵頂部の東よりに位置し、東西 60m、南北 28m の楕円形で、周囲は土塁で囲まれています。北側には切岸と斜面途中に置かれた腰曲輪状の平坦部を、南側には幅 16m の大型の堀を配して防備されています。また、主郭の南北部には虎口を設け、それぞれ一段低くなった場所に曲輪を設けています。

南側の曲輪は、腰曲輪状の小さな平坦地が段々に配



主郭南側の虎口を望む（南から）

され、さらに北西方向には南北に豎堀が延び、登城道への防備性が高い構造となっています。ここでの特色として、地形に即した土木工事を行い、防御性の高い縄張りであったことが挙げられます。

亀山城の歴史

築城～廃城

『作手村誌』によると、亀山城は奥平貞俊が応永 31 年(1424)に築城し、「長篠・設楽原の戦い」以後の天正年間に一時廃城となったと伝えられています。その後、慶長7～15 年(1602～10)に奥平信昌4男で家康の養子となった松平忠明が亀山城を与えられたといわれています。

発掘調査成果の概要

亀山城跡の内部では、これまでに発掘調査が実施されています。その成果は、主郭では明瞭な建物跡が確認されなかった一方、礎石として使用されるような石材で形成された長さが6間の石列2条と、東西約3m×南北約2mの方形を呈する性格不明の石敷状遺構1基が確認できたほか、大窯第2～3段階(1530～1590 年を中心とした時期)の遺物が出土しました。

亀山城跡の半径 500m以内には、倉屋敷、姫屋敷、馬呂遺跡、奥平氏の一族が居住したとされる石橋城跡、奥平氏の居住施設ともされる清岳城屋敷跡、タイコ屋敷など奥平氏に関係する可能性のある城館跡が集中しています。これらのことから、亀山城は城主の日常の居住場所でなく、元亀3年以降の武田氏と徳川氏との軍事的緊張の高まりによってこの場所が使用された可能性が高いと考えられます。

《亀山城跡へのアクセス》

所在の場所:新城市作手清岳字シロヤマ 地内 道の駅「つくで手作り村」隣接

公共交通機関:JR 飯田線新城駅下車、市営バス作手高里線で新城栄町乗車し、清岳で下車。徒歩5分。

自家用車:新東名高速道路 新城 IC から国道 151 号、301 号を經由して約 40 分。

《お問い合わせ》

〒441-1305

愛知県新城市竹広字信玄原552

新城市設楽原歴史資料館

TEL・FAX 0536-22-0673

E-mail shitara@city.shinshiro.lg.jp

(火曜・年末年始休館)

